

カンショ「べにまさり」品質向上技術の組み立て		
[要約] カンショ「べにまさり」の育苗、土壌化学性、栽植密度、挿苗節数、挿苗期、収穫期の総合的な栽培技術を組み立てた。それらの技術を活用することにより、丸いも、萌芽いもの発生率が低下し、A品率は70%以上確保され、粗収益が向上する。		
茨城県農業総合センター 農業研究所	成果 区分	普及（普及）

### 1. 背景・ねらい

行方地域を中心に栽培されているカンショ「べにまさり」は、丸いも、地中萌芽いもの発生を抑え、A品割合を高める栽培法が求められている。そこで商品性向上のための栽培技術を開発する。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 育苗は、ウイルスフリー苗（以下 VF 苗）による苗増殖ではベニアズマより高めの温度管理をおこなう。種いもからの採苗は、帯状粗皮病による外観品質の低下がみられるためおこなわない(図 1)。
- 2) 圃場は、pH、可給態リン酸、交換性カリ、交換性石灰含量、炭素率の土壌化学性が指標値範囲を選定する(図 1)。
- 3) 栽植密度は畝間 100cm 以下、株間 28cm 以下、350 株 / a を目安にする。
- 4) 挿苗は取り置きし充実した 7 節 7 葉苗を 4 節植えにする（図 1）。
- 5) 挿苗期は 5 月中旬～6 月下旬までとし、収穫期は 5 月中～下旬挿苗では在圃日数 130 日を目安に、6 月挿苗では 11 月上旬までに収穫する（図 1）。
- 6) フリー系 128 は堀取り直後の食味に優れる（図 1）。
- 7) 本マニュアルを活用することにより、丸いも、萌芽いもの発生率が少なくなるとともに A 品率は 70%以上確保でき、粗収益が向上する（表 1）。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 行方市現地の結果であり、淡色黒ボク土地域を対象とする。
- 2) 詳細は、カンショ「べにまさり」ウイルスフリー苗の利用年限（H19：育苗法）、カンショ「べにまさり」の A 品率向上のための土壌化学性の指標値（H19：土壌化学性）、かんしょ「べにまさり」商品性向上のための植え付け節数（H17：挿苗節数）、カンショ「べにまさりフリー系 128」の食味特性（H18：食味特性）の県主要成果を参照にする。

#### 4. 具体的データ

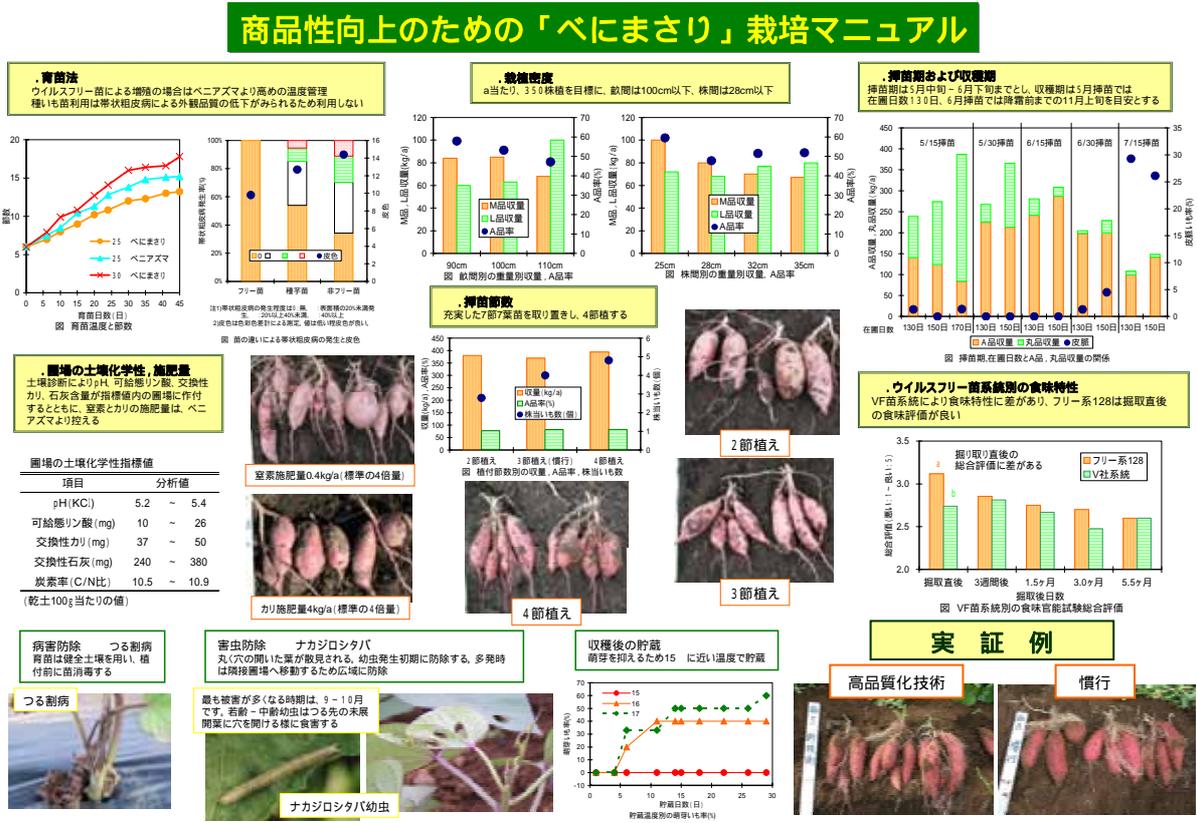


図1 カンショ「ベにまさり」の栽培マニュアル

表1 収量, 外観品質, 萌芽いも率(2007, 行方市現地圃場)

試験区	収量 (kg/a)	株当いも数 (個/株)	1個重 (g)	外観品質割合(%)				萌芽いも率 (%)	粗収益* (指数)
				A	B	C	丸いも		
高品質化技術	398	3.5	288	70	11	0	19	7	123
慣行	401	2.9	443	53	15	1	31	24	100

栽培概要: 挿苗6月5日, 掘取10月23日, 在圃日数140日, 栽植密度: マニュアル栽培397株/a, 慣行栽培317株/a

収量は50g以上のいもの総重量, 外観品質は県出荷基準に準じて調査, 丸いもは長径/短径 = 2.5以下のもので障害のないもの  
粗収益は2005, 2006の販売単価の平均から試算し, 慣行栽培100に対するの指数

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ブランドづくりのためのかんしょ「ベにまさり」の栽培特性の解明と栽培法の確立:

平成17~19年・環境・土壌研究室、作物研究室